

月刊

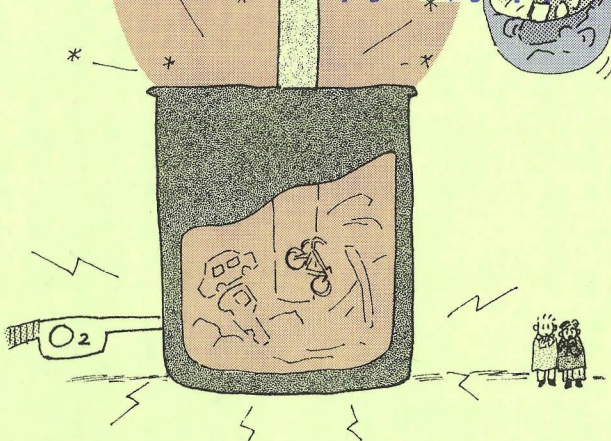
リサイクルデザイン

地球が与えてくれた贈り物を大切に
リサイクル社会の実現をめざしたい

リサイクルデザインは、横浜市内の資源回収業者の組合(135業者が加盟)による、市民と組合員にリサイクルの情報・回収の実情を伝えるための情報誌です



スクラップが再び原料に



自動車や鉄骨などのスクラップがどのようにリサイクルされるのか、自分の目で見たいと思っていました。この11月、それがついに実現したのです。

うかがったのは東京製鉄株式会社の岡山工場。瀬戸内海に面した

かでもホットコイルは、10年前東京製鉄の技術者が、電炉業界で初めて1・5ミリという極薄の鉄板を開発したのだそうです。

今回見学したのはホットコイル工場です。ここの特色は世界最大の電気炉。電気炉とはスクラップを溶かす巨大な釜のようなものことです。

工場に入った瞬間、ドブーン、ドブーン、ドドドドドドというものすごい轟音と地響きに度胆を抜かれました。電気炉の釜の上から巨大なホットパイで100トンの原料を2回に分けて炉に投入し蓋をして、上から電柱の何倍もある電極を釜に挿入すると、鉄骨や自動車などのスクラップがどんどん溶け始めます。轟き渡っている轟音は、スクラップが溶けて行く時、釜の中でドカンドカンとぶつかりあったり、溶岩のように溶けてドブンドブン波打っている音だったのです。

この電気炉は1回に200トンのスクラップ(大型トラック20台分)を溶かすことができ、鉄が溶ける温度は1500度以上になります。200トンの鉄を溶かすのに使う電力は860000キロワット。これは新幹線が東京・博多間を10往復できるほどの電力だとか。下から酸素を吹き入れると、炎と火花が吹き上がり、見学していた私たちはあまりの迫力に、ただ一言「すごい」と息をのんで見守るばかりです。

こうして溶かした原料を、縦10メートル・横1メートル・厚さ20センチほどの型に入れ、加工しやすい形(半製品)にします。そして最後の圧延工程で十分の一ほどの肉厚に延ばし、巻物状にくるくる巻いて熱を冷まして、ホットコイルの出来上がりです。この時点で鉄の温度はまだ600度、完全に冷えるまでに4日かかるそうです。

工場の方からは、鉄に銅や鉛などの非鉄が混ざっていると製品に悪影響が出るので出来るだけ混ぜないでほしいということ、そしてボンベなどの密閉物は電気炉の中で爆発する危険があるので絶対に一緒に回収に出さないでほしいというお話がありました。

とにかく、規模といい、全自動のシステムといい、最新鋭の設備に驚きの連続でした。(ボ)

●鉄のリサイクルについては8ページも合わせてどうぞ。

岡山県の水島工業地帯にあり、敷地面積は15万坪あります。スクラップをリサイクルして、ビルを建てる時などに使われる鋼材のH型鋼・鉄筋棒・薄くて軟らかい薄板(ホットコイル)などを、年間120万トン生産しています。な

スクラップが溶けて行く時、釜の中でドカンドカンとぶつかりあったり、溶岩のように溶けてドブンドブン波打っている音だったのです。

もっと知りたい！身近なゴミのこと②

衣料品のリサイクルって どうなっているんだろう①

中野 聰 恭

■古着が普段着だった時代

人間には、身を守る丈夫な皮膚や暖かな毛皮がありません。それでも生活圏をこれだけ広げることができたのは、繊維衣料を手に入れることができたからです。天然繊維が主体の時代には、その生産量には限界があり、それに加えて布を作るまでの工程に大変な時間と労力が必要だったため、衣料品は高価で貴重なものでした。それ故、「ボロボロ」になるまで何度も使ったり（リユース）、別のものにして作り直して（リメイク）使われていました。

日本の民族衣装である和服は、リサイクルするのにとても都合よく作られた衣料でした。平面裁断でカッティングされているため、糸を解くと元の四角い布に戻り、簡単に洗い張りや仕立て直しができました。またフリーサイズであることも、古着として流通する素地を作ったと言えるでしょう。室町時代には古着屋は絵画に登場し、江戸時代になると、生活の一部となっていました。神田の岩本町通りの両側には古着市、神田・芝・日本橋・浅草などには古着屋が軒を並べていたそうです。

明治に入っても、東京には4500の古着商がありました。

明治18年発行の「神奈川統計書」には、横浜に178軒の古着商があると記載されています。呉服商は108軒と記録されていることから、数の上から見ると新品より古着の方が主流だったと想像されます*1。

古繊維を繊維原料として取り扱う近代の（？）な古繊維再生業者が誕生したのは、明治初年のことでした。当初は製紙・製綿原料商と称し、洋紙の原料としてボロを集めていました。この当時の「ボロ屋」さんは、「紙屋」さんだったのです*2。

*1 神奈川統計書によれば、数の上から古着商は10位、呉服商は14位にランクされています。また、神奈川全域の古着商は、卸売商3軒・中卸商101軒・小売り商11044軒となっています。

*2 この辺りの経緯は私の書いた『ボロのはなし』（リサイクル文化社）に詳しく書いてありますので、関心のある方はお読みください

■古布・古着リサイクルの現状

紙やビン・カンのリサイクルと比べて、古布・古着のリサイクルはまったく姿の違うものに生まれ変わるため、わかりづらいかもしれ

れません。そうした事情が、古布・古着の回収率10%以下という数字に反映されているのだと思います。また、衣料品はビンやカンと違い、使い手にとって思い入れの強い商品であることも、回収率に影響を与えているのかもしれない。

古布・古着のリサイクルは、左ページのよう有機的な共生関係の中でリサイクルされています。リサイクルの方法には、大まかにわけると次の3つがあり、それぞれ約3割の割合でリサイクルされています。

① 再生原料（反毛わた*3など）
② 再生利用材（ウエス*4・軍手など）

③ 再使用品（中古衣料）

図をみていただくとわかるように、古布・古着の循環の中心的存在を果たしているのがリサイクル業者です。リサイクル業者は「ボロ屋」と呼ばれてきました。

古着リサイクルをボロ屋さんが取り扱うようになったのは、昭和40年代の半ば（1965年頃）のこと。それまでは、「古着屋」さんが扱っていました。それがボロ屋さんに集まるようになったのは、日本の経済構造が大量生産・大量消費型に変化し高度成長した結果、古着屋が商売として立ち行かなく

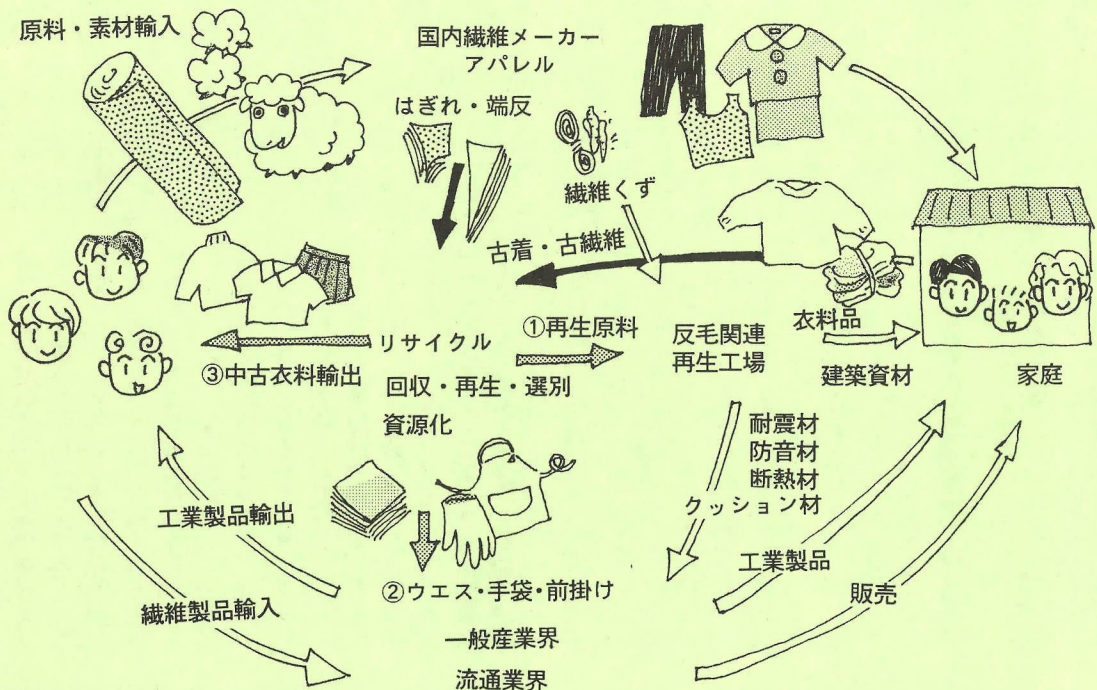
なり、行き場を失った古着がボロと一緒に大量に回収されるようになったためです。

バザーへ品物の提供を呼びかけると、一番たくさん集まるのが古着。そしてたくさん売れ残って困った経験をお持ちの方も多いことでしょう。フリーマーケットでも古着が売られています。国内でリユースされる古着は、日本で消費されている繊維製品の量（毎年約220万トン）、及び回収されている古繊維の量（約20万トン）から見ると、ごく一部でしかありません。残念なことに、90%以上はリサイクルもされずに燃やして処理しているのです。

*3 反毛 繊維製品をほぐしてわた状の繊維にしたもの
*4 ウェス 工場で機械についたオイルや汚れをふき取るのに使う布

海外向けの中古衣料

リサイクル業者が扱っている古着の99・9%は、海外向けの中古衣料です。上着や人目に触れる衣料（アウターウェア）の場合、日本では衣料品の本来機能が評価されて価格が決まるわけではなく、デザインやブランドに対してお金



が支払われる部分が多くなっています。けれども日本の中古衣料を必要としている海外の人々は、まだ衣料品に対して身体を覆う被服としての機能を求めています。

肌着のように人目につかない衣料品（インナーウェア）については、多少事情が違ってきます。通常、衣料品の購入価格は、アウター衣料は高価、インナー衣料は安価です。しかしリサイクル衣料の価値は、必ずしもこの定理にあてはまりません。日本の消費者は、自分の肌身につけたものを他の人に使っていたくのは失礼だし、安い値段で買ったものは十分使い切った元をとっている、リサイクルなど必要ないと考えます。けれども、機能的に優れた肌身に近い衣料品にはリサイクル価値があるのです。

穴はあいていないけれど足首のゴムが伸びてしまった靴下*5、使い古しのハンカチ、何度も洗濯してヨレヨレになったシャツやタオル……。どれもまだ使用価値の残っている貴重なリサイクル商品なのです。

*5 靴下は左右をひとまとめにしたまま回収に出してください

（筆者は横浜市資源リサイクル事業協同組合理事長）

この続きは2か月後のリサイクルデザインNo.42で。古着の海外事情などについて触れます。

家庭科は 環境教育の宝庫

横浜市立芹が谷中学校 森下育代教諭

中学校の技術家庭科は数年前から男女共修になり、それに伴って指導要綱もかなり改訂された。新しい技術家庭科は森下さんの手で、さらに環境教育の宝庫として生まれ変わった。

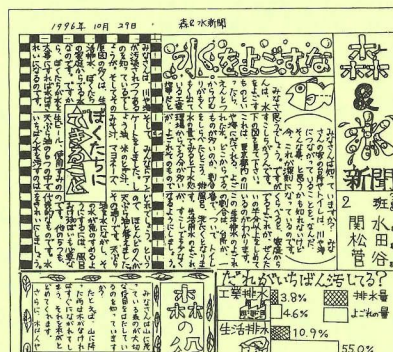
●グループで環境新聞づくり

中学校家庭科というと、筆者は頭がくらくらする。無味乾燥な栄養の理論を習ったり、やりたくもない洋裁をやられたり（自分でやったためしはないが）、嫌な思い出ばかりだからだ。

しかし森下育代さんの教える芹が谷中学校の技術家庭科は、直感にうったえ、生徒たちが生き生きと取り組める体験型授業だ。

森下さんの授業では新課程で登場した家庭生活という領域で、1年生2学期で「地球環境に優しい」をテーマに新聞を作成する。クラスを3〜5人のグループに分けて、森林保護、ゴミ減量、食品添加物、オゾン層保護など、さまざまな環境問題を取り上げたB4で1ページの新聞だ。各グループには森下さんが資料

生徒たちの作った新聞



の入手方法や内容についてのアドバイスをするが、あとは調査も含めて、生徒の自主的な活動となる。

ただ、全員が環境問題に関心を持つとは限らないので、その前段として、夏休みにゴミ焼却場や下水処理場などの見学を課題に出したり、2学期に入って環境問題のビデオを見せるなどして、環境問題への感心をあらかじめ引き出しておく。

実際に作成された新聞は、もらってきた資料を丸写しということも多いが、授業後の感想文には「リサイクルするだけでなくゴミそのものを減らす努力をする必要を感じた」などと書く生徒もいて、問題の本質への理解を同わせる。

●すべては環境問題へとつながる

森下さんはこの他にも、清涼飲料水

をつくって添加物や缶ジュースの値段、自動販売機の問題を考える授業、保育の領域でのリフォームの幼児服づくり、衣類の手入れの単元でのドライクリーニング溶剤や合成洗剤の問題を考える授業など、授業全般を通して環境教育・消費者教育の視点を取り入れている。また、廃油石鹸をつくって家庭科室での洗い物に使ったり、調理実習で出たゴミはなるべくリサイクルにまわすなどの実践も忘れない。

「すべては環境問題につながるということを、いつも念頭に置いています」と語る森下さんは、実生活でも徹底したりサイクル、シンブルライフを実践する。「教えるからには、自分でもやらないでは思っているの」

環境問題の知識はある程度あっても、実際の生活となかなか結びつかないのが今の中学生の状況だと森下さんは言う。そんな中で森下さんの授業を受けた生徒たちは、確実に環境問題を自分の身にひきつけて考えられる人に育っているようだ。

こんな先生に家庭科を習っていたら、筆者ももっと家庭科好きになったかもしれない。今回は、芹が谷中の生徒たちがただただ羨ましく思えた取材だった。

たかはしゆき

横浜・ゴミを考える連絡会事務局長
環境教育の現場から」は隔月連載です

●コピー用紙（新聞古紙90%の再生紙）

平成9年11月現在

サイズ	入数	規格	1・2ケース	3・4ケース	5〜9ケース
A4	2500枚	白（白色度70%）	2,080円	1,980円	1,910円
		ピンク・イエロー・グリーン	3,660円	3,480円	3,120円
		白（白色度70%）	3,180円	3,160円	2,780円
B4	2500枚	ピンク・イエロー・グリーン サーモン・パープル・ブルー	5,000円	4,800円	4,680円
B5	5000枚	白（白色度70%）	3,180円	3,140円	2,760円
A3	1500枚	白（白色度70%）	2,570円	2,540円	2,230円

●コンピュータ用紙

入数	規格	5〜9ケース
2000枚	白（白色度60%）	2,900円

（ご注文は）

横浜市資源リサイクル事業協同組合
TEL 045-316-4050 FAX 045-316-6050

*この他の再生紙については、右記までお問い合わせください。

電気製品を処分せざるを得ない時は、コードだけでも切りとって保存しておいてください。コードには実にいろいろな楽しみ方があります。一方、空きビンにはマクラメ用の紐でカバーを編んで壁かけ型のビンにするという再利用法がありますが、この紐の代わりに黒色のコードを使うと、紐とは一味違った、そしてかなりがっちりしたビンカバーが出来上がります。小一時間もあればできますよ！

▼用意するもの

ビンのサイズが、高さ18センチ・円周30センチの空きビン。

太いコード（幅5ミリ・

黒）は85センチほどのものを4本。細いコード（黒）

は2本がくっついて平たくなっているものの真ん中を

割いて、幅1ミリのものを作る。1メートルのコード

から2本作り、これを切り分けて使う。

コードの長さはビンの大きさに合わせて加減する。

▼作り方
① 太いコード4本をビンの底に当る部分で細いコードを使って固定する。この上にビンに乗せ、四方に伸びている太いコード（8本）はビンの周囲を包むように伸ばす。

地球をまもる家事と工作

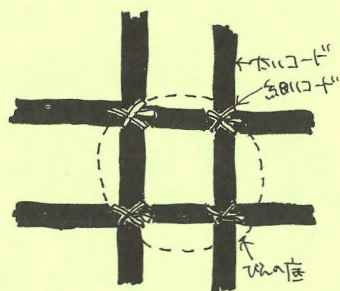
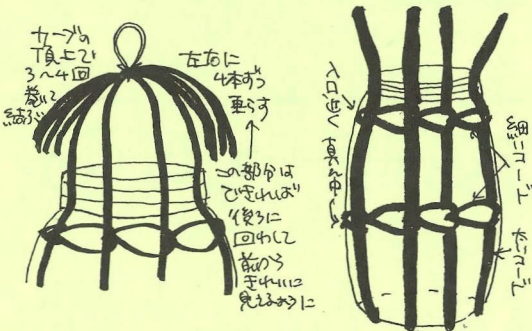
第21回 電気コードの再利用
ビンをもつためのマクラメ風カバーに

島 秀子

エコサイクル家事研究家



カーブを作って8本ひとまとめにし、頂上で細いコードを巻いて固定する。
④ 細いコードの残りで壁かけ用の輪を作る。
玄関ドアの脇などにごう



再生紙を使ってみませんか！

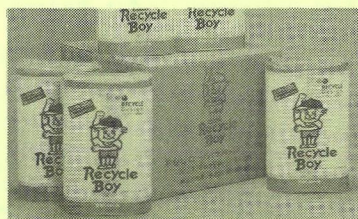
私たちの資源回収で生まれた〈新聞古紙・上質古紙〉を含んだ再生紙です。地球環境を保護することにこだわり、環境汚染をなくすよう配慮して作りました。再生紙を使うメリットは、省エネルギー・ゴミ減量・森林保護に役立ち、しかも経済的なこと。私たちの願いは、地球の未来のために住みやすい環境を作ることです。

●リサイクルボーイ トイレットペーパー（上質古紙100%の再生紙）—— さわったお尻は忘れない

サイズ	1ケースの入数	規格	10ケース以下	11ケース以上
シングル（芯なし）（1ケース8バック／1バック6ロール）	48個	130m	1ケース3,360円	1ケース3,000円

*上記価格は、1回のご注文につき1ケースあたり（各種・各サイズ込み）の価格です。消費税が別途かかります。

*配送は、受注後2〜3日以内（土・日は除く）。送料は無料です。10ケース以上のご注文については、別途ご相談ください。



今年3月、リサイクル事情が日本よりも進んでいるヨーロッパのリサイクル事情を見学してきました。ヨーロッパと日本の一番の違いは、国がリサイクルに対し法律で後押ししていること、そして国民もリサイクルについて十分理解していることです。

参加者は、紙の専門業者から産廃業者までと様々だったので、びんのリサイクル会社・一般市民が持ち込めるリサイクルステーション・ゴミのリサイクル会社・鉄や非鉄金属のスクラップ会社と、いろいろ見学してきました。そんな中から、今回はドイツのゴミ処理工場をご紹介します。

見学してきたのは「リサイクリングカールスルーエ」と「カールスルーエゴミ経済会社」の2か所。「リサイクリングカールスルーエ」はカールスルーエ市内の家庭ゴミの70～80パーセント、事業系ゴミの20～25パーセントを扱い、「カールスルーエゴミ経済会社」ではカールスルーエ市を除く郡部で発生するゴミを処理しています。回収を行うのは、市とDSD（デュアル・システム・ドイチェランド）。DSDは1991年に



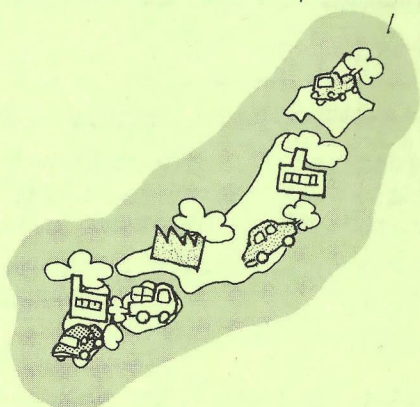
包装容器等の回収業務を代行するために設立された機関です。ドイツでは、製造・包装容器メーカー・流通業者は本来自ら回収する義務がありますが、DSDと契約し、製品にグリーンポイントをつければ、DSDが回収を代行してくれるシステムになっています。DSDは信頼のおけるリサイクル会社に回収・選別・加工を委託しています。

回収したゴミはコンベアに流して、古紙・段ボール・プラスチック・金属類・アルミ・紙パック・ガラスなどに手選別した後、品種別にまとめて出荷します。目で見ても古紙の不純物が多いように見えた通り、異物混入率は10パーセント。これは日本と比べるとかなり高い数字ですが、それでもメーカーは引き取るそうです。ちなみにこの時期の新聞や雑誌の売値（引取価格）は、トン当たり2890円でした。

「リサイクリングカールスルーエ」と「カールスルーエゴミ経済会社」では、リサイクル量や扱った人口に応じてDSDや自治体から支払われる処理料金が収入となります。工場に外国人労働者が多く目立ったのが印象的でした。（竹澤留美）

2.43 トン

この数字
なんだ？



京都で行われた温暖化防止
京都会議では、温室効果ガス
の中で温暖化に最も大きな影
響を与えていると見られる、
二酸化炭素の排出量をどう規
制するかをめぐって激しい討
議が行われました。

日本の二酸化炭素排出量は
年間2・43トン（94年の
データ）。これは中国の4倍、
インドの10倍にあたり、世
界第六位の数字となっていま
す。

とりわけ、こここのところ目立
つのは一人当たりの排出量の
伸びです。

二酸化炭素の排出は主に石
油・石炭などの化石燃料を使っ
たり、廃棄物を焼却すること
によっておこります。つまり
私たちの社会・経済活動が増大
するにつれ、増える性質のもの
なのです。私たち一人一人
が生活を見直していかないとす
る温室効果ガスの排出量は減
らないのです。

『生物多様性の危機——精神のモノカルチャー』を読む

ヴァンダナ・シヴァ著／高橋由紀・戸田清沢

三一書房 定価2,500円＋税

著者はくり返し説く。アジアの豊かな生物の多様性・伝統的な知識体系に対し、西洋という一つの地方の暴力的な支配体系がしてきたこと、していることを。例えばオランダはモルッカにおいてクローブとナツメグの木の75%を切り倒し、生産を三つの嚴重に防備された島に集中させた。この本は東洋から西洋に向けての静かな怒りの書である。そして回復を図る必要性を実証する啓示の書でもある。

サブタイトルのモノカルチャーを辞書で引いてみた。「単一栽培」とある。ガワール・ヒマラヤ地方の松のモノカルチャープランテーションは森林ではないという。水と土壌の保全、地域社会への食物・飼料・燃料・繊維の提供といった多面的機能を果たしていない。単にパイン材を提供するのみだ。

日本の杉の植林をみれば、誰の目にも明らかである。豪雨を受け止めきれず、各地で土石流を引き起こす。今年も九州地方で大災害が起きた。木材の他に何も生み出さない。

下流域で稚貝が育たず、カキの養殖業者が上流で広葉樹に植え替えるといった動きが全国で

なされ始めた。生物多様性の復元作業と言えるだろう。里山の見直しが盛んになってきている。学ぶべきことは、山村・離島に残っていないのかもしれない。

屋久島や西表島は、森が島の90%以上を占める。深い森は膨大な酸素の供給源。都市の消費を黙って補う。あまりの不便に開発が遅れているだけのことなのだが。そこで垣間見た豊かな知識体系、森から里にもたらされるものは新鮮な驚きだった。養分を含む山の水が流れ込む田に肥料はいらない。山の木を、実を、草を衣食住に生かす。川で海でエビやカニ、海草をとる。これらを受け継ぐ子どもは多分に少なく、成長すれば島を出る。しかし刷り込まれた複眼の世界の抗い難い魅力に引き戻され、帰郷する人はいるし、都市を離れ里山に新しき村を築く人もいる。都市にいて問題を問いつける人も少なくない。人もまた多様な生物の一個なのだ。

第三章 バイオテクノロジーと環境、第四章 種子と糸車——技術開発と生物多様性保護の二章は、先進諸国でなされている実体を多方面からとらえるよいテ

キスト。痛快な一節を紹介しよう。

「種子とは本来、再生産する資源であるにも拘らず、商品化された種子は自らを再生産しない。すなわち遺伝資源は技術によって再生可能な資源から再生不能な資源へと変換される」

先端の生物学を分析する、社会学・哲学の書とも思える。実に多様なこの本の訳者の一人は、リサイクルデザインに「環境教育の現場から」(隔月)を連載している高橋由紀さんである。

(ササキミチコ)

リサイクルデザイン

NTTタウン誌大賞 特別賞を受賞！

NTTタウン誌フェスティバルは、地域文化や地域コミュニケーションの振興・発展に貢献しているタウン誌(紙)の活動を応援するために、NTTが発足した1985年から毎年開催されています。リサイクルデザインは今年はいじめて参加したのですが、全国777誌に及ぶ応募の中から、何と特別賞をいただくことになりました。

年々リサイクル誌の参加が増えているため、選考の際にはいろいろ議論もあったそうですが、リサイクルデザインは8ページの中に、市民と組合員

それぞれの主張がしっかり盛り込まれているということが受賞理由となりました。

「まさか!」「うれしい」という気持ちの受賞です。ここまで一緒にやってきた読者や市民の皆さんと、組合員の皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。これを励みにまた頑張りますので、これからもよろしくお願い致します。



リサイクル 標準価格表

平成9年11月現在

品名	買入価格*	業者の売値 11/27日経新聞より
新聞	1kg - 1~0円**	1kg 3~4円
雑誌	1kg - 5~-2円**	1kg 0~-5円
段ボール	1kg - 3円**	1kg 3~4円
衣類くず	1kg - 1~0円**	1kg 4~5円
アルミ缶	1kg 10~20円***	

* 集団回収には「買入価格」が適用されます

** 有償となります

*** スチール缶などと選別してある場合の価格です

★ この価格は500kg以上集団回収する団体のみに適用されます
また取引条件により、多少の変化があります★ 事業所から発生したものは、集団回収の対象になりません
事業所ごとに、業者と直接ご相談ください★ 集団回収以外の段ボールの回収には、1回3,000円以上の
手数料がかかります

★ 段ボールは必ず束ねて出してください

オフィス古紙
共同回収

'97.10

参加企業 12社

14,120kg

回収地域は横浜駅西口・
新横浜の2か所アルミ缶
店頭回収

'97.10

市内スーパー等
102店舗46,020kg
(3,083,000缶)横浜橋通商店街
ダンボール回収

'97.10

14,380kg

リサイクルには一般に2つの方法があります。ひとつは形を変えずに再利用する方法。もうひとつは素材の状態に戻してから再利用する方法です。今回紹介する鉄の場合は、後者がリサイクルの主体になっています。

テーブルや電気スタンドのように、ほとんどが他の素材でできていて、一部が鉄というような場合でも、鉄の部分だけ取り出せばリサイクルが可能です。実際、回収業者はかつて手作業でそれらを分別し、鉄問屋に売却することによって生計を立ててきました。現在は機械化・ハイテク化が進み、シュレッダーと呼ばれる機械で処理を行う問屋がほとんどです。シュレッダーは、今まで回収業者が手で行ってきた分別を、短時間で正確に行います。カッターと呼ばれる鋼鉄の歯でたたき砕いた金属屑のなかから、磁石や風力などを利用して、プラスチックや紙ゴミ、非鉄金属などを取り除き、シュレッダー材と呼ばれる10~20cm角の鉄片にします。それが電炉メーカーに運ばれ、鋼材の原料になるわけです。

現在は、景気の低迷やゴミ処理費の高騰、人件費の増大等の理由から、問屋段階での金属価格が暴落しているため、回収業者のほとんどは有料で金属屑の引き取りを行っているのが実情です。

また、近年問題となってきた地球温暖化についても、鉄のリサイクル自体が膨大なエネルギーを必要とするため（収集の際のガソリン消費やシュレッダーの電力消費、新たな設備の建設等）、一方で資源の有効利用で地球環境保護に貢献しているリサイクル活動が、他方では地球環境を破壊しているという矛盾も現れてきています。

リサイクル
コンポイント講座月刊 リサイクルデザイン
No.40

発行日 1997年12月15日

発行人 中野聡哉

編集人 宗村隆寛

発行所

横浜市資源リサイクル事業協同組合
〒220 横浜市西区平沼1丁目33番1号
東洋建物横浜ビル5階
TEL 045・316・5122
FAX 045・316・5122

スタッフ

山岡秀明・武松昭男
杉山宜利・竹澤留美

ライター

島秀子・高橋由紀・ササキミチコ

イラスト いとうみき

編集・制作 よしのたかこ

印刷 オリジナルプランニング

編集後記

♥今年も一年、山あり谷ありでしたが、何とか無事に終わりそうです。今年はやはりNTTタウン誌大賞特別賞が一番印象に残った出来事でした。表彰式に出席して改めて受賞の喜びを感じ、またこれからの励みにもなりました。その席上で、全国の受賞者の方々と話ができたのも収穫でした。読者の皆さま、来年もどうぞよろしくお願ひします。

(ドナルド)

バックナンバー差しあげます。
送料のみご負担ください。
お申し込みはお電話で。
☎045・316・5122 担当 竹澤

“リサイクルデザインClub”
会員募集

月刊リサイクルデザインは、市内の一部の区役所・地区センターで無料配布していますが、会員として定期購読して支えてくださる方も募集しています。ご希望の方は、1年分1,000円(郵送料相当)を郵便局の振替用紙を使ってお振込みください。

口座番号 00210-3-64725

加入者 横浜市資源リサイクル事業協同組合
お届けは毎月20~23日。特にご指定がなければ、最新号からお送りします。

また、イベントなどについての情報を、別途お知らせします。